61

桐下葉

六月廿日　上　　書のまま人

一桐邸家司書院の儀

日ぐらし御めくまくとなりたるをもて庭掃かのごとのら掃
なすに此の日城内より特使にて上意もぐ〜〜病と
つとめ登城せんと伝言ありしを聞きち使不埒徳使
●書院下部の心得にて東島に寄をかく書院満邸の秘密
高つなきの筋は清えて廊落廣椽先に桐が
部院十四日同じく今村三左衛門主男人の屈託
ばかりに日日勝すよせ十七今村氏ひかり遠水甲

用紙

奥方の御上使にて入来にて一定侍人らの穿
悔の筆跡嘆のかく御まる者をば上意なるべ
ぐし計取ん涙明て左衛門殿一徳の御
馬廻なるまるて秘〜同じ何等の仔細も
話なく御うけなるし御主君の胸中何とも以て
心得ぬ〜今へさまべ最前のかん風れべ
今朝未明のうち大野親子ひとかたにまるの浪人
を西の方に繰入れ〜〜ばかり以て不審の至ナ
親流でんんとかんん外に大変なる何うんか
ん意動なりて茶道於相をもの其の他一両人

田清

八8 4726 9

[illegible]と犯そのこと今へかとゞいて油断なくこゝろへ実方一葉の[illegible]まゝ御島さゞらさまゝ御面影御祈願のあ御御神へ御発願のお留主なれど御[illegible]さのまゝ御[illegible]ちさせ神へ御発願のお留主なれど御[illegible]さのまゝ御[illegible]ちさせ

やさしかな在のお祭めまぬがれかしこ[illegible]六の上て秋と両人

さ[illegible]おわ無[illegible]蒙ごとも[illegible]発なて面を留[illegible]今へ西方逐一ト

陳じさ[illegible]ちの御[illegible]御[illegible]ぬてこぬめさん今へちのうん[illegible]すぎま

御居間へト地ゝとゝ[illegible]ちうた実方心今御帰

トゝもを程なく秋風に耐こめや相の一葉の前

安らぬ胸の裏庭つゝ世ゝちのうゝ[illegible]

つま取る手さ[illegible]家ぞに思へくゝゝゝ帰らゝ

へ深えぞる大[illegible]ぞにゝゝゝ退って急みやト力なくへオハ

毎日の外出家後のゝゝゝ出迎ひ[illegible]記の毎ト今

[illegible]へハ勿体なゝ[illegible]お詞[illegible]

[illegible]今へ失禮ごめん

[illegible]ま[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

また「語りて深き閨に隠れ」といふ御屬の面もいつ
まとなく神のみつげに疑ひなくしさるるも思寝深き紙が
夫がなど軽々しく御こゝろなりかゝるものとは何ともせよりふつの
答へ「恵」そとぞ思ふらうのそとたちふるも詰共
にと主従語らふ中の風より「アイヤ其のつゝ」無
用なるぞ紙に書く語りといつの間のやう雨に髪行げ
思ふ「みつまく」月代のつぎもかなりし整髪社行 折月 座
より着いぶ「はやかくまでにもお落のと鶯く雨へ寝方へ」
ばみ時「恵」また「へ」いかるるかれ書ませねどこのごろよ
りかぐの報誤い家の尼上切のお命ありやこそ所望を共へ今夕
まで藝所なりし 秋字 孤在うけらるが 親愛 隆所
御意思も知って 行事のお家のこと
もてなしまして 御意思 用紙
思い我が手が尼門のうち 寄付共
御事思い我が手が尼門のうち 寄付共
流なくまうづうが発なのうなんぼ思なるなごもやって
生定知めの大事の意感にこの一ことの意思なく 記
の綱がかれなんぶら離使時より立偽り如何なるものまで
やはり心偽やつきなり ト迷まるとなるへその然以
思り両人もさぶめし不審さまを見よト懐中より取
ぐしくゝ濃すを両人ちくゝぐき 二書 打解るき
へて 出れなる月や奥 御四判 御題 変にうまく
十 出さまの

裏方遺恨聞き見て

65

[illegible]との御記諸文へ上い梵天帝釋[illegible]下へけんら
うちん[illegible]稲荷祇園加茂者日ハ小の
神祇に御祈[illegible]のけさたらは[illegible]のこと[illegible]
神罰ちもどくらに罰らんと[illegible]御記諸文へ京
大坂さまぐ雑説やりくらの親子ならそやしの事ちう
きるも思ひさすがいあやらの事人やれとも御用入りま
しくんはの方も用入れもまぐき事一ヲ秀頼さま
そもじ事変の忠勤いつ高れわもんやそもしより外
御このみりこれりたぶりいよく頼み入り外に
なずれ心中親子ならゆめさるか在たへ思ふ外ヤ

用紙

元同

わ事と（先）へそのもの御ちご（なきうつ）ばのもろよりいゆ
めのさくかちご（まし）とのの（御ぬる言）かこ（と）も（分仲なり）
（ゑ）もやすご（き）言葉（ゑ）し（ゑ）ば（ゑ）ん（内）（ゑ）ん（なる）（ゑ）ん（内）（ゑ）さまよ（り）
下し（ゑ）ば（ゑ）ん（御）（ゑ）（ゑ）（ゑ

国ゝみ 御動乱 家ゝし

揚む笑のうちなる所く丹トなるば言はせず薄氷
らげへやう存ずるから歌うあさられ物のたる女のまち気
とたあ猫文を疑ふとを言ふ道断
ゝし相側の俗人ならにかつたる陽国き陰謀なり
て且元ず一命ゝと且夕よちぐまるとる
●家ゝ当ゝ何ゝ今時ゝも勝負なさんや国ゝ
しの遠慮ゝ過ぎちりて定を招き且元
ず一生の不覚なるしさるを後悔先ゝまるを易安微世
ずゝ猫なるなどそきるとより諸大事と況当二世ゝ
論とゝられ紀なぬ二風に林を揚き屋命に背き

用紙

ゝゝも今ゝとゝび両ゝに手調ゝ満ゝたゝ俗
事を陳ゝ御疑●の雲を晴へ千歳の計を定め
公庭ゝ上御疑と■けなんよい其の傷を手ゝ俗者ゝさみに殺ゝ
ゝ方の恩絶ゝゝ家ゝの墓薄ゝ三ゝ陸ゝ大鉄修辺
のゝゝゝゝれ且元ゝの世ゝ合ゝゝぶゝなゝ■味ゝ異味の鉄ゝ
ゝり専念ゝ家の利益ゝ国ゝ意見ゝゝ強ゝ甲
意ゝまゝ立ゝかゝゝゝゝ主従ゝ其の御決心ゝさゝ
ゝゝなれゝゝ俗人ゝゝゝば■ゝ限ゝ■ゝ
おゝゝやゝゝゝと■ゝゝ鏡ゝ■色映ゝゝ■ゝ■ゝ千人ゝの
御身を危ゝなゝゝまゝん世上の譏ゝ今ゝ三ゝ

終に決せり

お家へ御帰へ一ツ御神の
道路の一助仕合へかるべく以て
たれと言葉を尽し三人がかゝみの
けすべ今まで一命延たりしも
らぶんぐ我れ為ふるも何を
るや一本の以てもくすぐ
ゆ切来りて誓ひて誘の解く
らたれかんや再びそること
椽端お立ちいづまづ
かゝまいづる動の寄せ

伊細御関乃べ

りもて今日御堂城廓はさ
徒に犯ること
よ其の一通出々
二御国どのより
下し大島つぶ
等ず年始の
すゝめまること

用紙

ト奥庭口へ入る金平主膳正へヤア誤れらと思て
何故出仕をとゞめしと
くるゝ主へ
城廓はされんへ主の
ことまで御宮
織のどの
より父君の
高使
手を取り
急ぐ
城
の高使と
御祝詞まで
百方御母公を
御祝言文
入りや御祝言

麹町三番の

まで御歌の知らせを受けて今へやりはらうまで御と
思ひそめさへ思ひきはめ難なくなりたと一同が
異世界とるばかり主婦に言葉をまで御親切
いろものみならず怪くにあの極らせぬまで御そんでふるまいが
申さでやまぬ此の珍事と此の珍事とを茶
菓子の前ちらと眺めて
直ちにがしが横死のはなし
に紛れ心なんとなんが記憶なるかを今のかき葉
どーしと事の行ならんとけよ世きさつ白見えんいる
そこれを知へすると思へさるの仔細を知へ御君必ず記きて
まつる情婦に自実とて相思てきと思へきて
放てど二、とひっくり目の色の一変へ
定か何故ト問ふも詰とも
存ぜぬとの紅四郎氏
仲と思ひこと思ふ縁談を申込みと娘氣なる
ちとされて心乱れ思へ迫る自害さと
ますまでまこと情なる神を
祇日ならしとのぢらと富ツて自実とる
遂げさせしト語るうちの一葉の前

用紙

[illegible]こらえずうんとそりの[illegible]て[illegible]働く主膳良[illegible]等共に[illegible]主[illegible]
[illegible]水よ氣[illegible]と[illegible]絶す先刻より黙[illegible]居上に恩寵の
前に明らし眼を見[illegible]
よお家存亡の瀬戸際に一少女の生死何のほうん[illegible]けの上
[illegible]我の[illegible]決[illegible]主膳の[illegible]後事[illegible]の[illegible]に委ね置くぞよさらば
[illegible]言葉[illegible]やかに其のまま手[illegible]猛い繰り[illegible]
[illegible]宣元[illegible]
[illegible]こと[illegible]君命より[illegible]城し恩寵[illegible]陽[illegible]所
存そこ退きめされ[illegible]こと物や狂[illegible]求めて[illegible]地に[illegible]
[illegible]仰ぬ[illegible]
[illegible]主膳[illegible]分[illegible]

迎へて敢て諫め[illegible]鎧よ[illegible]
の本分なり且[illegible]絶体絶命[illegible]野心の証[illegible]討手向
けらせん必ず[illegible]君前[illegible]
を[illegible]
[illegible]慶退け[illegible]諫臣の誠を
[illegible]計[illegible]誠公[illegible]上[illegible]
[illegible]城内[illegible]
[illegible]注石[illegible]東其の機[illegible]
[illegible]平[illegible]今日の[illegible]
[illegible]諫[illegible]
[illegible]無[illegible]の[illegible]

無益そこの迷さらさらそこ注じゃやらして
このきそこいべくぐ
なを達し終ず方す世等若輩の知れることなるんや上面倒をト
くる鞭の下るまかけ寄る宣え行かんやらとくくみるくみ儀こ
明外藩かくくつまるこの人音土煙程もなるせずうけ入る若者へ御
注進ト手だてッたり
さやこ心得ず本村書状洲口の落馬和
諸共東郷の御用を宮まらせ宮まらこに注進
何事とく
やせト言葉の下へさん候紋を共お番所呼あまかくらした男へ
がなくく大騒の手の者総勢九三百余人一時よとと押寄
世来ら旦元家科捕まりさまいすさまお番所明渡せん無こ
用紙
無こたこ入る掘ろこい家かやせ御下書なくこそ一すれ医さかくこ
問答西三国よるぶおつなどてなげる国の諸先ようる栗橋藩
兵ッ和五塔ようて倒れ
藩が家の子山庭先校や
掘の証拠と手ずくり乱入すはの上て是迄なくと一同掘ま
つも縦横無尽と必死と
無こなながら切立てるこ辛くる一方の四路を固めて我くらぐう
七八人のがれこうて今まするト前ど
大島つまアゝちなくく獄家ッはの上へ登成る無角ト馬よ
さくくく

きらめく手鏡の炮

をめぐらしちべきざさんとたうなるなるら敵に無謀の振舞なせしん[illegible]仔細[illegible]行らんと[illegible]ぶるる母元にのまとう

[illegible]逃えッと仰きへ[illegible]ぬるるく若者共血氣なやり一時の

[illegible]無謀の振舞なさんも知れぬ[illegible]紛れ代すきと

[illegible]陸奥と母様あり奥へさばらくるなるといてるら後果なる

きび[illegible]ぶ[illegible]「キャア」てる見苦しく手を[illegible]ちよ[illegible]

とく立ちあれ立ちまさ[illegible]暇みつるとく[illegible]行く[illegible]見る

[illegible]イ信義其の方れ退ッこ休め主[illegible]の[illegible]

嫁端に[illegible]逆と祈るもなると「市[illegible]」[illegible]

[illegible]ばたる[illegible]

[illegible]

行[illegible]物よ長刀

る母曹でたちの[illegible]のまとの郎[illegible]

移氣を合るみ意外の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふじみ

ど紀なるさんと なぜもおりうら 東南の 東出 左に 強動のうと 家来の
註進 註進 もなく 御畳の 身の上 大の上 力を 合はせ 奸賊ならを
諸 なるさんと すなわち 七手 勢 ひ 国 ら 山の上 猪鹿 無益 城
諸 綱の 七組 ひ 峠 ひ 同心 ひ ひ ら 動かず ひ わ 色 ひ 逆言 せ ど
ゆ ひ 峠 水 ひ ひ 同心 ひ ひ ら 動 ひ ず ひ わ 色 ひ 逆言 せ ど
内 逆 逆 なる 先ず 敵 を 動 ず 強く 陣 これ ひ る
でし 分 かく せきち 領地 旦元 思 ひ ず 丸 き 見 を 出 き 「 さ て
そ ま ひ る 土 野 親 子 を 漢 露 見 せ ち と 思 度 せ し よ な ○ か く
成 り 行 き る 天 ひ ら 命 ひ ら 人 て 雪 た 何 を か 為 ま ん ア 山 る
る な 一 ち 一 ち ち 田 ち た し 力 ど ち の 命 人 に な り 天 て な
ら ず 先 ず き ど 敵 を 討 す 強 縁 せ ど 自 滅 の 基 程 な く 討 手 煙 り

用紙

せ 来 ら ん 用 意 ま ま 敵 を ず ん 敵 れ ま 駆 け の け 向 う ん 敵 軍
け ち ま ま ど ち ま ど ち ま ど ち

今まで感
寄せ来らべ邸を人
をかけ自
戦の決心

よ果家を立てる振舞へムト外ハ陸軍の侮を拒き内ハ家
の威を急ぐ[illegible]無傷の[illegible]の同詩さと又悪とはさ
んも立ちてあるの振舞ずやれへけそさんへ已に今朝
も知ふるとす世るるるも[illegible]の御上使或ハ行人等ごさし
ぶねもやと一度[illegible]しが[illegible]
かくけなき所詮なき命偽るわせよ無らもせよ御心とけさせ
紙ず面見ようずとなることも若し君家に肝をさらし若し
同じ[illegible]立ちぐんとなる[illegible]ずるけつ[illegible]家を主張つぶして無道家
を注進が感に面を流せ上ハ[illegible]の家のかるる由なし最後
に一つの望となせる[illegible]拝謁もけもめ上ハ[illegible]の世の弱れ今限りと[illegible]
主膳る偽事と[illegible]と覚悟の紙ず心底[illegible]
城兵一人[illegible]ちめる[illegible]
陸まで煙[illegible]
すが大変の[illegible]
[illegible]
[illegible]

生れたかゝる心なぐんかの駆さくみをも聞きぶさじ

紀州藩士 朝比奈泰勝

山もやう大野の駆へかもむ

うずだせめて七島後つ一ッのゆるを御意に駆げさすゝ

しものを

富ねしそや要之丞様ト

[illegible]様の五郎の狂へたいぶかる

良光

旦元主の特も出る見てひのくらへ

「ヤ」「何故ん伊豆守殿の」「ヤ」

御主君るゝ御切腹トさはぐを和する伊豆守へちらか

正に先豊てさの家ゝと相果つべうりし豆政ず一命今日ま

で存てん而ひとりか誠忠に感じなきを一臂の力を添へん

その後い祖の見たのを限中市左衛門

ひしき而ひどゝ目ごろの頼家げさんを思へこそ仇を

今こそさとる我がちゝ誠が市左衛門ちゝぶせし味方も仇

わかりてるそやかくまで種富る生みつゝしなつらし悲

めゝや[illegible]旦えでゝの[illegible]さのちゝらと編みゝ

せめてん豊牛限を陽らゝてさへ無念晴れこの「言」が大の腹

さいご最後のゝ遺頼むゝ[illegible]庭

に荒野る相の葉ゝ相の葉ゝとこの風情ゝ旦元決ゝ

[illegible]一ず手負の手を取り目とゞまるこゝ

[illegible]神ちん動のまゝ御意の言ゝ我ゝ神ちん一言の

悪怒ずゝしゝ[illegible]ゝ秋の過勝ゝ[illegible]悔を寄

しくれよ主膳正ゝ[illegible]ゝ豆政ゝ[illegible]下

さゝゝ[illegible]ゝ旦えゝ最後に御意にいのゝ言葉やぐ

てゝゝ遠ひゝぐゝ三細の詫ゝ実土ゝ白ゝ

両眼ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ生ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

用紙

五番

ことのつみ無しとて一言●置きみやげ置者の一得いまの世
言何卒自彩を思へとぞまつ一まつの場を落延びらまよ
今死すんだ大死いづこか命を陽もしもばし時ちも
相俟たよ補佐の大功なりといふ土産を置土でき
なるみ短冊の貧乏ゆかしいましの短冊ちいと薬
常に弱る新主魔 郎宛のみ紙かを紙が筆かき物ッをかはば
と仕て息絶えて一同左右ばし主を葬もなく秋然ちて松か
ら 秋より国こゆる 坂太郎貝
鐘人馬の土ふくまへさてこそ大野の討手の軍兵ちや柳岩
さてと覚えて

用紙

いと物見とう国もなく
うけ来る今村、十河十兵衛知へ国て大野が討手の軍兵
総勢凡そ三百人程人物見せ来ると覚えてわるふ
見つる 霧雨 十餘人 物見せ来 迎撃て泡吹うんとて
外よ井へでいて十四人 十四人 十四人 落去ちいふ国も結ぶ手
すねうて、所ゑ懐然 一百人 ことりく心と組結 北ぶき
機をそ一先ひ了んあ 討 撃合る 吹き矢の用
無用、同生をむそ 流去せよ 主隠 も家の
意 仔細なり居 動のあ決心
偽逃と整揃ひ立つ裾に 吹落しくる 相一撃ちはえず見ち
る直前の 岩よ 彩 且元 慨嘆 なるめ入り一緒

今祝宴 仕らん勇ま 七郎ん内の 場を一目 御落去御 ごし

ヤア一言も 異見無 益我が心 決へ ぞ 必ずそ ることのれ○

幸ひ紛れ紙等所かさりしが秋ぐ名子国も庭前の梧桐遠く悩落なし 慢金ら天地の秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]